

| | | | | |
|------|-----------------|----|-------|-------|
| タイトル | 二つの世界 (ボックスアート) | | | |
| 学校名 | 千葉県立 大網 高等学校 | 美術 | 氏名 | 永田義信 |
| 教材費 | 約 1000 円 | | 実施時間数 | 16 時間 |

1. ねらい

多様な表現方法の現代美術の入門として、平面絵画に拠らない表現のボックスアートを体験する。「絵画に拠らない」というと、生徒も戸惑う難しい題材に思われるが、ボックスアートは表現の目的ではなく、油絵や版画同様、表現の手段なのだから、生徒に適切な動機を与えれば、比較的扱いやすい題材となる。私の場合、「箱の中に対となる（そうでない場合もある）二つの世界を表現しなさい」とすることで、生徒がテーマを導きやすいようにしている。「愛と憎しみ」とか「過去と未来」とか、人は、物事や概念を対にして理解しようとするものだからである。

2. 材料

- ・ボックスアート枠（市販教材）・クラフトクレー・アクリル絵の具・接着剤・他各自用意

3. 展開（時間）

①ジョセフ・コーネルの作品鑑賞

制作の動機付けとする。

②テーマ（一組となる二つの単語）の決定

テーマとなる言葉は制作のきっかけと考える。制作が進むにつれ、イメージは広がり、深まり、精練されていく。また、イメージは連想ゲームのように移行していくのが常であり、初期のイメージにこだわり過ぎなくてよい。その方が、むしろ生徒の心理に触れる表現となる。

「山」や「海」、「夜空」など、目に見える存在としてイメージできるものよりは、観念的な言葉をテーマとした方がおもしろい。

テーマ（一組となる二つの単語）の例

対となる言葉… 「天国と地獄」「真実と嘘」「楽しい時と辛い時」「硬い、柔らかい」など
 同列のもの二つ… 「大好きな食べ物二つ」「将来の二つの夢」「春と夏」など
 擬態語、擬音語… 「ふわふわ、ぶくぶく」など

④素材集め

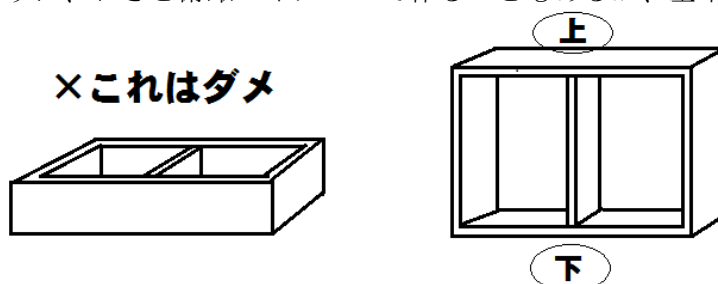
テーマに関係ある物ない物、考えすぎないで、実際には使わないかもしれないような物であってもいいから、いろいろ集めてくる。

例

子供の時の写真、雑誌の切り抜き、人形、ミニカー、キーホルダー、貝殻、つぶれた空き缶、石、釘、鎖、ビー玉、ビーズ、針金、綿、毛糸、ボタン、新聞紙、チケット、セミの抜け殻、どんぐり、はさみ、鉛筆、手袋、口紅、映画のチケット、テストの成績票、他

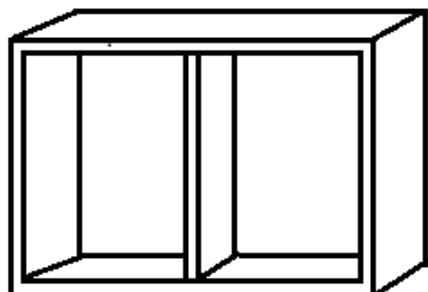
③箱枠の製作と箱分割（パーテーション）のアイデア

まず、箱の上下について説明する。壁に飾るように考え、箱枠のある一辺が下となるようにする。何も考えず、机の上で制作すると、箱の底を下（地面）として制作してしまう。壁掛けの地図のように、わざと俯瞰のイメージで作ることもあるが、基本は箱枠の一辺を下とする。

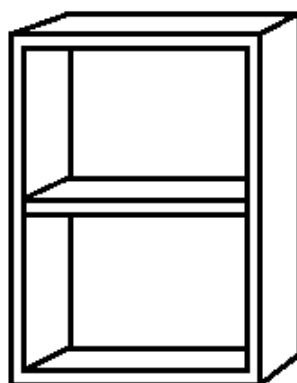


箱分割はテーマ（イメージ）と大きく関係する。安易にはできない。二つの部屋を同じ面積で分けてもいいし、違う面積にしてもかまわない。また、左右に分けてもいいし、上下でもいい。中央部と周辺部という方法もある。（実践例の中では、箱の内側と外側とした生徒もいた。）

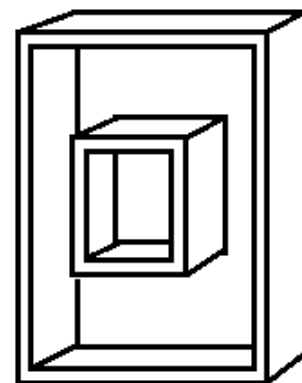
箱割の例



- ・左右に分ける
二つの世界は同列の関係



- ・上下に分ける
二つの世界はヒエラルキーのある関係



- ・中央に小部屋を作る
求心的なイメージ
または、拡散

⑤物に宿る心

物はただ物そのものであるという以上に、所有者（制作者）の深層心理に関わる意味合いを持っている。それは個人の体験や記憶にまわりついた無意識、あるいはトラウマのような感情によるものである。また、物は集合的無意識によるシンボルのような意味も持っている。例えば、白い貝殻があったとしよう。この貝殻の意味することとは、ある人にはこの貝殻を拾った時の幼き思い出であったり、別の人には広大な海の象徴であったり、またある人には、今は生命を失った抜け殻の象徴であったり、それは化石のように太古から続く時間の流れであったり、あるいは、乾いた白さは南国少女の首飾りのように清潔感を表すイメージであったり、と様々なのである。ただ、私たちは、通常、これらのことを、愛着か嫌悪か、だいたいは無視といった態度で接している。ボックスアートの制作では、この物に宿る心に耳を傾け、イメージを深めていければ良いと思う。

⑥紙粘土の使用

紙粘土を配り、必ず使うことを条件にしている。紙粘土の使い方は自由。ジオラマにしたり、素材として集められないものを作ったりする。必ず使うことを条件にしたのは理由がある。素材を集めてこられない生徒に対し、教育的指導として、「これで何かを作りなさい」と言える。

4. 指導上の留意点

- ・発想の段階ではイメージを広げる様々な指導の工夫もできるだろう。ただ、アイデアスケッチをいろいろ描かせるよりは、持ってきた素材を、「あーでもない、こーでもない。」と、いじっていた方がイメージをつかみやすいと思う。だから、箱にすぐに物を貼り付けたりしないで、数時間は、箱に並べながら、遊ぶように考えるのが良い。
- ・いったん制作が始まると、意外と、生徒はどんどん制作する。一番の問題は、自分の表現したいイメージに、自分の技術がかなわないことである。確実に接着する方法や、箱に穴をあけたり、物を宙にぶら下げたり、生徒がどうしたいかを読み取り、最も良い方法で手助けするのが教師の役割である。

5. 生徒作品



↑ 白い世界と黒い世界である。ゴスロリの美意識を感じさせる。黒の世界はクモの巣で閉ざされており、白の世界も包帯を連想させるリボンで閉ざされている。



↑ 二つの世界はどちらも自分の好きなものということだ。左には好きな漫画とアメリカっぽいお菓子。右は好きなファッションを表している。



↑ 題名は「楽園と廃墟」である。楽園に置かれたものが不思議だ。左上には原子生物のような形が標本のように配置されている。また二つの世界の仕切りは、透明な板によって、あいまいに仕切られている。



↑ 雲のようなもの（綿）で仕切られた上は、彼女の夢（憧れ）を表している。トウシューズは幼き日の思い出であり、今は、切抜きのようなファッションに興味がある。下の、現実の世界に住む人形は夢について話している。



← 題名は「心と風」。左の世界はテスト用紙を破り、向こうからこちらを見つめる眼。カメレオンでつながった右の世界は風。渦を巻く風が、よられた糸や放射状のペン先で表現されているのは、左の世界の反映だろうか、抑鬱を感じさせる。



↑ 木の幹に「another world」と記された扉が……開けてみると、……何もない。「ココハアナタノソウゾウスルセカイ。ムスウノセカイ。アケルマエニアナタハソウゾウデキマシタカ。」と書いてある。扉のある作品を作ったのはこの生徒が最初だ。この作品にインスピレーションを受け、次年度から扉の作品が制作されるようになる。



↑ 左の世界では蝶が白い繭の中にいる。右の世界では夜の闇に閉ざされながらも、卵の中で、その時を待つ蝶がいる。しかし夜は完全な闇ではない。輝く星と宝石が希望を映し出している。(スイッチで実際に光る。) 闇が明けると(扉を開けると)なんと美しい幸福な世界! この清潔感に私は心を打たれた。